

各関係機関団体の長
殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 30 年度病虫害発生予察技術情報第 3 号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第 3 号（海外飛来性害虫の飛来状況）を発表したので送付します。

技術情報第 3 号

- 1 作物名 普通期水稻
- 2 病虫害名 海外飛来性害虫（セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガ）
- 3 発生状況
 - (1) 飛来状況
 - 1) 予察灯（5 か所）で、セジロウンカが 6 月 27 日～28 日と 7 月 1 日～5 日、トビイロウンカが 6 月 28 日に捕獲された。ネットトラップ（1 か所）では、セジロウンカ・トビイロウンカともに捕獲されなかった（表 1：7 月 10 日現在）。
コブノメイガは、フェロモントラップ（2 か所：筑紫野市）で 6 月 29 日と 7 月 3 日に捕獲された。
 - 2) 筑紫野市ほ場見取り調査（日本植物防疫協会「JPP-NET」ウンカ類飛来予測に基づく）の結果、セジロウンカ成虫を 6 月 29～30 日、7 月 4 日と 7 日に 100 株当たり 0.3～0.6 頭程度確認したが、トビイロウンカ成虫は確認されなかった。
 - 3) セジロ・トビイロウンカの主要飛来日を、6 月 28～29 日および 7 月 5～6 日と推定した（図 1）。（「JPP-NET」の飛来解析・県内の調査結果・近隣県の飛来状況参考）
また、コブノメイガの主要飛来日を、6 月 28～29 日と推定した（図 2）。
 - (2) 7 月 2 半旬のほ場調査結果
 - 1) セジロウンカ
10 株当たりの払落し成幼虫数は平均 0.2 頭（平年 7.1 頭、前年 0.2 頭）、発生ほ場率は 11.9%（平年 53.5%、前年 13.0%）で、払落し虫数・ほ場率は平年より少なく、前年並であった。

2) トビイロウンカ

10 株当たりの払落し成幼虫数は平均0頭（平成0頭、前年0頭）、発生ほ場率は0%（平成 2.1%、前年0%）で、払落し数・ほ場率ともに平成よりやや少なく、前年並であった。

3) コブノメイガ

30 m²当たりの払出し成虫数は平均0頭（平成0頭、前年0頭）、発生ほ場率は0%（平成 1.2%、前年0%）で、払出し数・ほ場率ともに平成・前年並であった。

表1 ネットトラップ・予察灯におけるウンカ類の飛来状況（平成30年7月10日現在）

月/日	セジロウンカ							トビイロウンカ							コブノメイガ							
	初	予察灯						初	予察灯						初	予察灯						
	筑紫野市	筑紫野市	糸島市	筑後市	行橋市	遠賀町	予察灯計	筑紫野市	筑紫野市	糸島市	筑後市	行橋市	遠賀町	予察灯計	筑紫野市	筑紫野市	糸島市	筑後市	行橋市	遠賀町	予察灯計	
6/21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/27	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/28	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/5	0	0	1	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 防除上注意すべき事項

- 今後の飛来状況やほ場での発生状況については、病害虫防除所が発表する病害虫発生予察情報に注意する。
- トビイロウンカは、田植時期や地域およびほ場毎の発生¹の差が大きい。また、育苗箱施薬剤が施用されたほ場でも、田植後1か月以上経過すると農薬の効果の低下に伴い増殖しやすくなるので、発生予想パターン図を参考に、ほ場における発生状況を把握し、発生が多い場合は幼虫期に防除を行う。

＜要防除水準：中老齢幼虫の合計数＞

飛来後第1世代：20頭/100株（7月中～下旬頃）

飛来後第2世代：100頭/100株（8月中～下旬頃）

- 無人ヘリコプターによる防除を気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に気化し、防除効果が著しく低下する場合がありますので、気温が上昇する前の早朝に実施する。
- 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守する。
- 病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



最新の病害虫発生状況

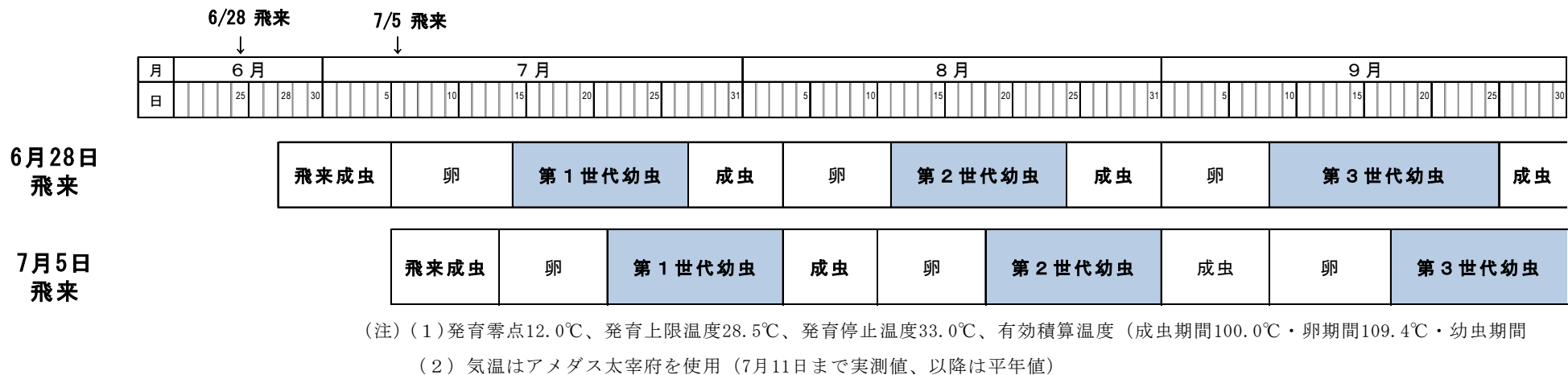


図1 飛来に基づくトビロウカの発生予想パターン図 (平成30年7月12日作成)

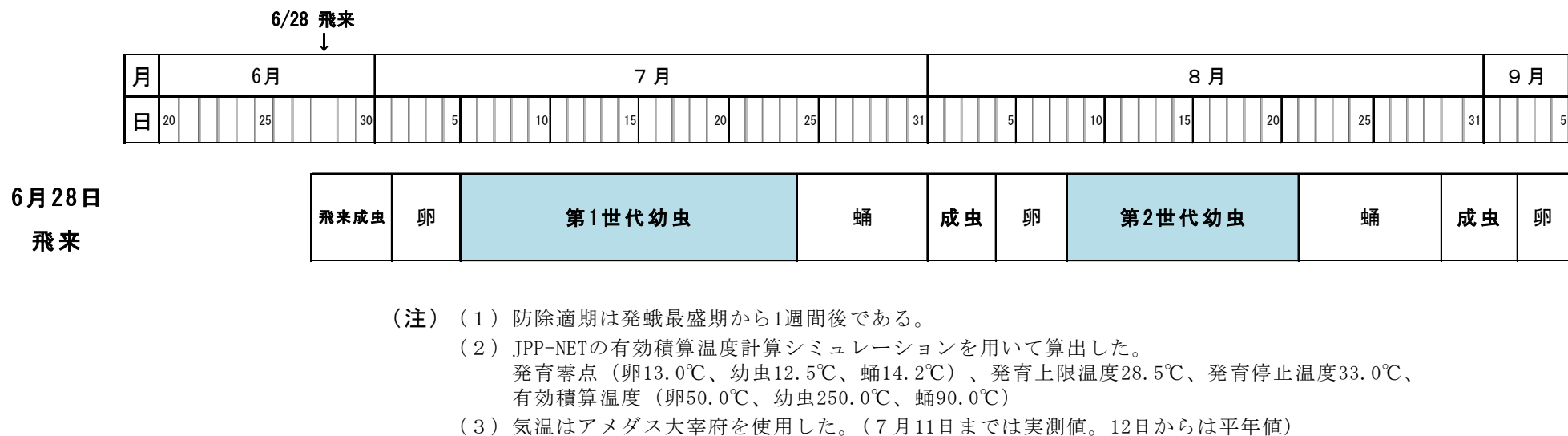


図2 飛来に基づくコブノメイガの発生予想パターン図 (平成30年7月12日作成)